

札幌市立北の沢小学校の取組【図書館活用授業】

1 研究のねらい

【研究テーマ】 「学校図書館の効果的な活用を通じた読書活動
および言語活動の充実と学び方の育成」

- 学校図書館の効果的な活用と本に親しむ活動の充実を図るとともに、学習・情報センターとしての図書館環境の整備を進める。また、さっぽろっこ読書プランに基づく実践の充実に取組む。
- 教科等の学習や日常における言語活動の基礎基本育成の取組と関連付け、豊かな読書活動に向けて様々な視点から実践に取り組み、コミュニケーションスキルの向上を図る。

2 取組内容

(1) 教科や諸活動と連携した読書活動の充実

① 【2 学年】学校図書館について調べたことをもとに、公立図書館の見学で気づきを広げる・つなげる活動

＜活動Ⅰ＞ 学校の図書館（室）内における配架の様子や本の分類について調べる活動を通して、自分の読みたい本を探することができる。

＜活動Ⅱ＞ 南区民センター図書室を訪問・見学し、図書館施設の機能、学校図書館との共通点や違いに気付く。



② 【4 学年】係活動で「読書クイズ」

＜活動＞ 本校では毎週月曜日と木曜日の始業前 15 分間を全校一斉の「朝読書の時間」としている。4 学年では、朝読書の時間に定期的に図書係の児童が学級内で読み聞かせを行っており、その読み聞かせ後には、その本にちなんだ「読書クイズ」を係児童で楽しく進めている。

③ 【6 学年】今までの読書体験を振り返り、自分と本とのかかわりを見つめ直し、今後の読書の幅を広げる活動

＜活動＞ 国語「私と本」の学習を通じ、これまでの自分の読書体験や自分と本との関わりについて考え、友達と伝え合う活動（どんな時／どのくらいの頻度で・量で／どんな読み方で／どんなジャンルで…など）と、国語「森へ」の学習の発展として、ノンフィクションやファンタジー、歴史もの、作家の別作品など、興味や関心を広げて学校図書館の本を探し、読む活動。

④ 【特別支援学級：こぶし学級】

朝の「読み聞かせリレー」活動

＜活動＞ 朝の会のプログラムの一つとして、学校図書館から児童が選んだ本を読み聞かせする側と聞く側を交代しながら何日間に渡って、互いに読み聞かせする活動を取り入れ、読書に親しむ機会を広げている。



(2) 図書委員会の活動「本の並木道」(読書週間)

＜活動Ⅰ＞ 読書週間にちなんで、図書委員会から全校に「自分が伝えたいおすすめの本」を公募する。

◇木の葉の形の「おすすめカード」に書名、感想、お話し推薦する理由などを記載してもらう。(全校児童)

＜活動Ⅱ＞ 各学級で集約したおすすめカードを、木の枝や幹を表した模造紙に貼付し、校内に展示。



(3) 蔵書環境の充実に向けた工夫

① 各種研究指定事業配当図書と学級文庫図書の組み合わせによる蔵書の充実

◇各種研究指定事業(昨年度までの図書館モデル公開授業と本年度の図書館活用事業)を通じ配当された絵本や物語・図鑑などに学級文庫を組み合わせ、日常の朝読書や読書活動、調べ学習に活用するための蔵書を充実させ、児童にとって魅力ある読書コーナーとなるよう配架などを工夫した。



② ブックトラックの効果的な活用と辞典類の学級常備

◇国語辞典や漢字辞典の配架を図書室からブックトラックに替え、教室側廊下の空間に配備するとともに、カラー版の国語辞典と漢字辞典を全学級に2冊ずつ配備した。授業で調べる際に速やかに教室で活用できるとともに、日常的に自ら調べる姿が増えてきた。



3 成果と課題

(1) 成果

○教科学習における関連単元や見学・体験学習、学級活動や委員会活動等、多様な機会を活用して本にふれる、親しむ、考える活動に各学年で取り組むことができた。

○読書活動の充実に向けた創意工夫が各学級で生かされるようになった。

(2) 課題

△児童にとって利用しやすい学校図書館となるよう、書架の配置や本の展示の仕方について改善や工夫を加える計画を進めている。また、学年で工夫している様々な取組を校内に還流させ、豊かな読書活動につなげる校内研修の設定が大切である。